

---

## Refugee is... Vol.3

### 「普段着」を着て、 難民支援をしてみませんか？

タキシードに紋付はかま或いはイブニング・ドレス。あなたは、年に何回そんなよそ行きの服を着るのでしょうか？ 作業服や長靴を履いて、泥にまみれて作業するなんて、年に何回ありますか？

難民支援と聞いたとき、あなたは何をイメージしますか？ ニューヨークやジュネーブで国際会議が開かれたり、スーダンやアフガニスタンで支援を必要とする人を助けたり？ 確かにそれもUNHCRや難民支援に関わるNGOの仕事です。

ただ、みんながよそ行きのドレスや作業服を着る必要はありません。募金だけが支援の手段ではありません。難民も私たちと同じ。足の速い人もいれば料理のうまい人もいます。相

対性理論で歴史に名を残したアインシュタインもまた、難民でした。だから、料理だって、サッカーだって、音楽だって立派な難民支援の表現になります。普段着を着て、あなたの得意なことを活かして私たちと一緒に、特別じゃないけど独特の難民支援を工夫してみませんか？

そうすることで今まで関係ないと思っていた世界が、あなたにぐっと近づくはずですよ。

そうすることで少しでも笑顔が、世の中に広がるはずですよ(そこにはあなたの笑顔もあるはずですよ)。

あなたの得意なことは、何ですか？

編集部一同

---

## UNHCRと ユースTシャツとわたし

UNHCR駐日事務所の任務は三つあります。第一に、日本にいる難民や庇護申請者の方を守るプロテクション。第二に、日本政府と人道支援に関する政策や資金調達について調整すること。第三に、難民問題を広報し、民間からの支援や寄附を募ることです。

私は立場上、よく大学で講義しますが、学生は驚くほど熱心に難民問題について勉強してくれます。そして学生の大半が女子学生なんですけど、これはなぜか？ 一度じっくり研究してみなければなりませんね。

今般、UNHCR駐日事務所のスタッフたちが、難民支援の新しいあり方についてまとめ



てくれました。見た目は奇抜に見えるものもあるかもしれませんが、その根本にあるのは、難民との「共生」です。難民を助けを求める人と決めつけて支援を考えるのではなく、彼らの潜在力やエネルギーや尊厳に共感して、共に生きる方法を探っています。

今私が着ているのはUNHCRユースのTシャツです。若者の大胆な行動力とアイデアが、UNHCRを、そして難民支援のあり方を少しずつ変えつつあると感じます。これを着ていると、私までパワーを得られるような気がします。どうです、似合いますか？

UNHCR駐日代表 滝澤三郎